

NEJIREBANE, No. 82, 15. Mar., 1999

三重県産コメツキムシの記録 (5)

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

これまで4回に亘り生川展行氏およびその友人諸氏により、最近蒐集された三重県産のコメツキムシについて報告してきたが、今回は生川氏を通して検する機会に恵まれた横関秀行氏の採集された資料について若干の知見と共に報告する。計37種あり、内1種は三重県初記録となるものであった。

Pectocera hige hige KISHII, 1993 ヒゲコメツキ

亀山市野登山(1♂, 3.VI.1995); 鈴鹿市長沢町長瀬神社(1♂, 3.VI.1995)

Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus (MOTSCHULSKY, 1861) サビキコリ
度会郡南勢町押淵(2♂♂, 22.V.1994)

Agrypnus (Agrypnus) cordicollis (CANDÈZE, 1865) ムナビロサビキコリ
三重郡菰野町田光(1♂, 18.V.1995); 一志郡美杉村平倉演習林(1♂, 28.V.1994)

Adelocera (Brachylacon) difficilis (LEWIS, 1894) シロオビチビサビキコリ
鳥羽市浦村町今浦バス停留所(1 ex., 5.I.1994, 落葉下)

Cryptalaus berus (CANDÈZE, 1873) ウバタマコメツキ
三重郡菰野町湯ノ山湯森林道(1♂, 7.V.1995); 志摩郡大王町船越(2♀♀, 21.V.1994); 度会郡南勢町押淵(1♂, 4.XI.1994)

Cryptalaus larvatus pini (LEWIS, 1894) フタモンウバタマコメツキ
度会郡南勢町押淵(1♀, 10.IX.1994)

Limonicus rufipennis (LEWIS, 1894) ハネアカカネコメツキ
三重郡菰野町田光(1♂, 18.V.1995)

- Limoniscus vittatus* (CANDÈZE, 1873) タテスジカネコメツキ
四日市市水沢町宮妻峡(1♀, 12.IV.1998)
- Kibunea approximans* (LEWIS, 1894) キアシヒメカネコメツキ
一志郡美杉村平倉演習林(1♀, 28.V.1994)
- Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus* (CANDÈZE, 1873) クロツヤハダコメツキ
三重郡菰野町鎌ヶ岳(1♀, 28.VIII.1994)
- Paraphotistus niger* (MIWA, 1928) クロオオヒラタコメツキ
亀山市野登山(1♂, 3.VI.1995)
- Actenicerus kiashianus* (MIWA, 1928) ホソシモフリコメツキ
亀山市野登山(1♀, 3.VI.1995)
- Acteniceromorphus fulvipennis* (LEWIS, 1894) アカハネフトヒラタコメツキ
亀山市野登山(1♂, 3.VI.1995)
- Ampedus* (subgen.?) *carbunculus* (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ
四日市市水沢町宮妻峡(1♂, 4.VI.1994); 亀山市野登山(1♀, 11.VI.1994); 名張市青蓮寺ダム(1♂, 8.XII.1993, 落葉下); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(2♂♂, 1♀, 4.IV.1998)
- Ampedus (Ampedus) orientalis* (LEWIS, 1894) アカコメツキ
三重郡菰野町田光(1♀, 18.V.1995); 度会郡大内山村南亦山(1♀, 11.VI.1995)
- Ampedus (Ampedus) japonicus japonicus* SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ
一志郡美杉村平倉演習林(1♀, 28.V.1994); 度会郡大内山村南亦山(2♀♀, 11.VI.1995)
- Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ
員弁郡藤原町河内谷林道(1♀, 14.V.1994); 志摩郡大王町船越(2♀♀, 21.V.1994); 度会郡南勢町押淵(1♀, 10.IX.1994; 2♂♂, 1♀, 4.XI.1994); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(1♀, 4.IV.1998)
- Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus* (LEWIS, 1894) ケブカクロコメツキ
尾鷲市九鬼町ナサ崎(1♂, 4.IV.1998)
- Ampedus (Ampedus) tenuistriatus tenuistriatus* (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ
亀山市野登山(2♂♂, 3♀♀, 3.VI.1995)
- Ampedus (Ampedus) tamba* KISHII, 1976 タンバクロコメツキ (写真1)
三重郡菰野町鎌ヶ岳(1♂, 4.VI.1994); 三重郡菰野町湯ノ山湯森林道(1♀, 7.V.1995)

小型のクロコメツキ類には近似種が多く同定に注意を要するが、両性共にその生殖器構造で区別は比較的容易である。本種はかつて *A. nanus* SILFVERBERG, 1977 (= *Elater parvulus* LEWIS, 1894 homonym to *E. parvulus* PANZER, 1796) と同定されていたが、これは熊本を基産地とする種で本州産の複数の種個体群のいずれとも異なり、少なくとも九

州地域に分布するものに限られる種であると見られる。*A. tamba* はその種小名のように近畿地方の中

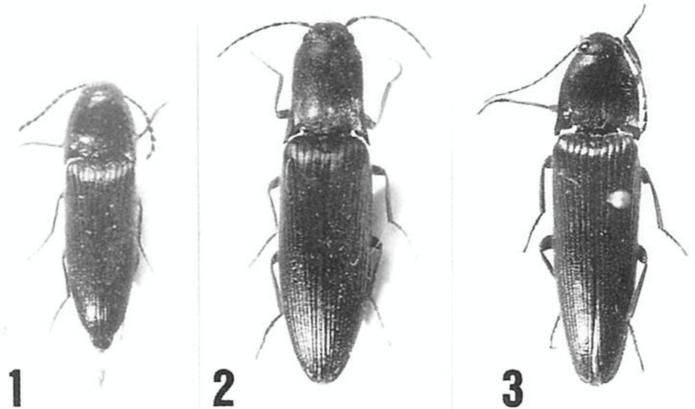


写真1-3: 1. タンバクロコメツキ; 2. カバイロコメツキ; 3. ナルカワシコメツキ

北部一体に広く分布するコクロコメツキで、現在その分布域は青森から関西地方までの広い地域から知られ、四国産の個体群も同種と見られる。奈良・和歌山両県を含め三重県でも広義の台高山塊全域に比較的普通にみられる種である。

Dalopius tamui KISHII, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ

多気郡宮川村大台栗谷小屋(2 exs., 4.V.1994, 燈火)

Ectinoides insignitus insignitus (LEWIS, 1894) ヨツキボシコメツキ

多気郡宮川村大和谷(1♀, 3.V.1994)

Ectinus sericeus sericeus (CANDÈZE, 1878) カバイロコメツキ (写真2: 暗色型)

員弁郡藤原町山口コグルミ谷(1♀, 4.V.1995, 暗色型); 亀山市野登山(1♂, 3.VI.1995) かって筆者(1984)が指摘したように、本種の体色は一般には上翅が茶褐色であるが、西南日本産のものほど暗色化し黒色になる個体の比率が高くなる傾向にあり、その境界的な地域が三重県のように思われる。これまでに検した資料では20%弱のものが暗色個体で、奈良県の大台山地の資料ではそれがほぼ50%で、四国あたりでは90%を越え、筆者の検した九州本土産個体(14 exs.)ではそのすべてが黒色個体であった。

Dolerosomus gracilis (CANDÈZE, 1873) キバネホソコメツキ

員弁郡藤原町山口コグルミ谷(2♂♂, 4.V.1995); 三重郡菰野町湯ノ山湯森林道(3♂♂, 7.V.1995); 三重郡菰野町湯ノ山温泉(3♂♂, 3♀♀, 30.V.1997); 安芸郡河芸町三行(1♀, 24.IV.1994, 落葉下); 一志郡美杉村平倉演習林(1♀, 28.V.1994); 志摩郡大王町船越(4♀♀, 21.V.1994); 北牟婁郡紀伊長島町三浦豊浦神社(1♂, 4.IV.1998, 落葉下); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(2♂♂, 1♀, 11.IV.1998); 尾鷲市盛松三木崎(6♂♂, 3.V.1995)

Glyphonyx illepidus CANDÈZE, 1873 クチボソコメツキ

亀山市野登山(1♀, 14.VIII.1994, 燈火)

Melanotus legatus legatus CANDÈZE, 1860 クシコメツキ

三重郡菰野町田光(1♂, 18.V.1995; 1♂, 2.VI.1995); 三重郡菰野町湯ノ山温泉(4♂♂, 30.V.1997); 亀山市野登山(1♂, 11.VI.1994, 燈火; 1♂, 3.VII.1994, 燈火); 鈴鹿市長沢町長瀬神社(2♂♂, 10.V.1995); 度会郡大内山村南亦山(2♂♂, 11.VI.1995; 1♀, 15.VI.1995, 2♂♂, 2♀♀, 17.VI.1995); 尾鷲市盛松三木崎(1♂, 1♀, 3.V.1995)

Melanotus narukawai KISHII, 1996 ナルカワクシコメツキ (写真3)

多気郡宮川村大和谷(1♂, 3.V.1994)

基産地の南亦山とは同じ山系と見てよいので、本種の分布としては特に新しい地域のものとは言えないが、このような見間違ふ恐れのない大型の種が永い間未発見であったことには多少、驚きを抱く。

Melanotus correctus correctus CANDÈZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

三重郡菰野町湯ノ山温泉(1♂, 30.V.1997); 三重郡菰野町鎌ヶ岳(2♂♂, 4.VI.1994); 亀山市野登山(1♂, 3.VI.1995); 度会郡大内山村南亦山(1♂, 3♀♀, 11.VI.1995; 2♂♂, 17.VI.1995); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(1♂, 4.IV.1998)

Melanotus annosus CANDÈZE, 1865 クロツヤクシコメツキ

志摩郡大王町船越(1♀, 21.V.1994, 1♀, 22.V.1994)

Melanotus erythropygus erythropygus CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ

三重郡菰野町湯ノ山湯森林道(2♀♀, 7.V.1995); 一志郡美杉村平倉演習林(4♂♂, 28.V.1994); 志摩郡大王町船越(2♀♀, 21.V.1994); 度会郡大内山村南亦山(1♀, 17.VI.1995); 尾鷲市盛松三木崎(2♀♀, 3.V.1995); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(2♂♂, 4.IV.1998; 1♂, 11.IV.1998)

Spheniscosomus cete cete CANDÈZE, 1860 アカアシオオクシコメツキ

三重郡菰野町湯ノ山湯森林道(1♂, 7.V.1995); 志摩郡大王町船越(3♀♀, 2♂♂, 21.V.1994; 1♂, 22.V.1994); 尾鷲市盛松三木崎(1♀, 3.V.1995)

属の扱いで *Spheniscosomus* は永く *Melanotus* 属の亜属扱いが主流を占めてきたように思うが、前胸腹板突起の特徴は極めて固定的で、一般的には紛らわしい種の殆どないことから考えて、些か人為分類の傾向が強いとの反論もあろうかと思うが、*Spheniscosomus* を独立の属とした方が分かり易いのでなかろうかと考えている。邦産種では *amamiensis* と *koikei* は明らかに同一系統の種間関係にあると思うが、前者の前胸腹板突起は明らかに *Spheniscosomus* の特徴を持ち、後者のそれは記載時そうであったように *Melanotus* s.str. の特徴を持つように見える。しかし突起基部は前脚基節孔を越えて突起の中間近くで内方に曲がることには変わりなく、*Spheniscosomus* と扱っても差し支えないものと思っている。



4

写真4. キョウトチビマメコメツキ

Spheniscosomus japonicus (OHIRA, 1974) ハネナガオオクシコメツキ

亀山市野登山(2♂♂, 3.VI.1995; 1♀, 3.VII.1994, 燈火)

Quasimus kyotoensis KISHII, 1966 キョウトチビマメコメツキ (写真4)

尾鷲市九鬼町ナサ崎(6 exs., 4.IV.1998)

これまでの既知の分布域は石川・福井・愛知・京都・奈良・和歌山・兵庫・岡山及び徳島の諸府県で、三重県からは初めてである。次種に似るがより小さく、体形が卵形に近く、小楯板凹陷部の形状や前胸背板点刻状況の違いなどで区別できる。

Quasimus japonicus KISHII, 1959 ニホンチビマメコメツキ

尾鷲市九鬼町ナサ崎(3 exs., 11.IV.1998)

Yukoana carinicolis (LEWIS, 1894) ヘリムネマメコメツキ

四日市市水沢町宮妻峡(1♀, 4.VI.1994; 1♀, 7.V.1995); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(1♂, 4.IV.1998)

Cardiophorus pinguis LEWIS, 1894 クロハナコメツキ

三重郡菰野町鎌ヶ岳(1 ex., 4.IV.1994); 亀山市野登山(1♀, 3.VI.1995); 尾鷲市九鬼町ナサ崎(1♀, 4.IV.1998)

Cardiophorus niponicus LEWIS, 1894 ホソハナコメツキ

三重郡菰野町湯ノ山温泉(1♂, 1♀, 30.V.1997)

(きしいたかし)

ちょっと気になる甲虫の情報 (XIII)

中根先生の記載されたナガクチキはどれもこれも頗る付きの珍品ぞろいで、日本のナガクチキを全種集めようとする場合の障害になるものばかりである。それくらい採集しづらい種類の中でも採集難度が上位にあると考えていた本種ナガイツツナガクチキではあったが、各地の甲虫屋さんの努力によって、本種の珍品たる所以が、少しづつとは言え解き明かされようとしている。今回は本種を実際に採集された方々からの各地の情報を寄せていただいた。(水野弘造)

Rushia nagaii (NAKANE, 1975) ナガイツツナガクチキ

(1) ナガイツツナガクチキの愛知県における採集例

蟹江 昇

〒464-0016 名古屋千種区希望ヶ丘2 6-1-418

本種は稀な種のように九州及び紀伊半島から記録されているにすぎない。筆者らは愛知県より本種を採集することが出来たので報告する。

愛知県東加茂郡旭町八幡,

4 exs., 12. & 22. VII.1996 及び 5. & 25. VII. 1997, 蟹江 昇 採.; 1 ex., 22. VII. 1996, 湯沢宣久 採.; 1 ex., 27. VI. 1998, 戸田尚希 採.

採集地は標高 650 m の低山地の稜線上の、コナラ・アカマツ・シロモジなどよりなる乾燥した二次林で、一般的な甲虫採集には好環境とはいえない林相である。採集個体はいずれも夜間のライトトラップに誘引されたものである。当地では6月中旬から8月にかけて定期的に夜間調査を試みたが成虫の出現はほぼ7月に限られ、気象条件の良い日にのみ飛来した。また本種の他にナガクチキムシとしては稀なオオメツカクシナガクチキ *Anisoxiella ocularis* (NOMURA et KATO) が多数飛来した。ともに原生林の環境より乾燥した松山を好んで生息地とするものと推測される。夜間、アカマツの立ち枯れや生木の樹幹などを調べたが、両種とも成虫を発見できなかった。(かにえのぼる)

(2) ナガイツツナガクチキ和歌山県の記録

的場 績

〒643-0004 和歌山県有田郡湯浅町湯浅 1410-26

ナガイツツナガクチキは稀な種であると聞いているが、和歌山県に於いては普通種とまではいえないが、それほど稀ではなく、和歌山県立自然博物館にも以下の標本が収蔵されている。

高野山, 2exs., 20.VII.1990, 後藤伸採集; 3exs., 25.VII.1995, 的場績採集; 2exs., 31.VII.1995, 的場績採集; 3exs., 14.VII.1996, 的場績採集.

高野町花坂, 5exs., 29.VII.1995, 後藤伸採集.

花園村久木, 4exs., 20.VII.1990, 後藤伸採集.

笠塔山, 1ex., 3.VIII.1997, 的場績採集.

白浜町, 1ex., 17.VII.1981, 後藤伸採集.

大塔山系黒蔵谷, 1ex., 17.VII.1985, 的場績採集.

古座川町高瀬, 1ex., 23.VIII.1989, 的場績採集.

上記標本以外にも、未整理の標本や知人に進呈した標本もあり、合計すれば30頭近くは採集されている。これらはすべて灯火採集によるもので、環境は落葉樹林や照葉樹林と様々であるが、何れも近くに針葉樹林(スギ・ヒノキの植林)があるような環境のほうが本種がよく飛来するようである。昼間も灯火採集地周辺で、ビーティング採集を行なっているが、本種が採集されたことはない。(まとばいさお)



ナガイツツナガクチキ

(3) ナガイツツナガクチキ大分県の記録

堤内雄二

〒875-0052 大分県臼杵市新地9組

本種は宮崎県大崩山の個体を基に記載され、その後和歌山県(水野, 1992)や対馬(水野, 1993)のほかにも福岡県(山口・上野, 1998)からも記録されているが、稀なものと思われる。筆者はやや古い採集記録ではあるが大分県で本種を採集しているので報告する。また同じ場所で比較的稀なオオメヅカクシナガクチキも採集したので合わせて報告する。

ナガイツツナガクチキ *Rushia nagaii* (NAKANE)

大分県緒方町傾山, 1ex., 29.VII.1990, 佐々治寛之博士同定、筆者保管。

7exs., 21.VII.1991, 筆者・水野弘造氏保管。

大分県宇目町北川ダム, 2exs., 30.VII.1983, 筆者保管。

オオメヅカクシナガクチキ *Anisoxiella ocularis* (NOMURA et KATO)

大分県緒方町傾山, 1ex., 15.VI.1992, (冬期採集の材より羽化) 水野弘造氏同定・筆者保管。

大分県宇目町北川ダム, 1ex., 30.VII.1983, 水野弘造氏同定・保管。

北川ダム, 傾山登山口付近では、アラカシ・ウラジロガシ・アカガシなどの常緑広葉樹が広がっていて、いずれの産地とも林道における灯火採集により得られた。

末筆ながら同定していただいた佐々治寛之博士, 水野弘造氏に厚くお礼申し上げる。

[参考文献]

水野弘造(1992): 北九州の昆虫, 39(1), 33-44.

水野弘造(1993): 北九州の昆虫, 40(1), 33-35.

山口大輔・上野輝久(1998): 月刊むし, (334), 25.

(つつみうちゆうじ)

(4) ナガイツツナガクチキ熊本県の記録

大塚 勲

〒862-0913 熊本市尾ノ上 3-5-1

本種は九州では福岡, 宮崎両県から記録されているが、熊本県からは未発表であった。しかし植生は宮崎県とあまり相異がないので、熊本県にも必ず生息していると信じて調査していたところ、下記のとおり採集できたので報告する。採集地は「五木の子守唄」でよく知られている五木村の山地で、夜間採集の灯火に飛来したものである。同定とご教示を頂いた水野弘造氏に厚くお礼申し上げます。

熊本県球磨郡五木村平沢津, 1ex., 10.VII.1996, 1ex., 1.VIII.1996.

熊本県球磨郡五木村大滝, 1ex., 21.VIII.1997, いずれも, 大塚 勲: 採集。 (おおつかいさお)

ちょっと気になる甲虫の情報 (V) --続編--

本シリーズの初期に生川・横関両氏の健筆で三重県における本種の採集法が公開された時は、この甲虫の特異な形態と生態とで一気に人気を博した感があったが、反響の連鎖で各地から記録続々という具合にはつながらなかったようである。ところが三重県の甲虫屋さんだけは、黙々と調査を続けついに、採集地点プロット数で三重県が全国一となり、本種の採集に関する限りで、後進県から一転して先進県に浮上してしまった。(水野弘造)

ハネナシナガクチキの採集記録

生川展行

〒513-0015 鈴鹿市木田町2399

筆者らは、以前本誌に *Nipponomarolia kobensis* MIYATAKE ハネナシナガクチキの採集方法について報告をしたが、その後も三重県内において調査を続行した結果、今回新産地を含め下記のように採集することができたので、報告しておく。なお、記録の報告を委ねられた天春明吉・官能健次の各位、標本写真を撮影していただいた市橋甫氏に心よりお礼申し上げる。

三重県伊勢市高麗広, 1ex. 10.I.1998, 生川採集; 1ex. 31.I.1998, 天春採集.

三重県伊勢市剣峠, 1ex. 10.I.1998, 官能採集; 2exs. 11.II.1998, 官能採集.

伊勢市剣峠からは既に生川ほか(1997)で記録されているが、伊勢市高麗広からは初めての記録である。

文献
生川展行・横関秀行(1997)ハネナシナガクチキの採集方法について。ねじればね, 75:7-8.
生川展行ほか(1997)ハネナシナガクチキの採集記録。ひらくら, 41(6):89.



ハネナシナガクチキ

(なるかわのぶゆき)

虫屋の広場 (18)

地域別総合甲虫目録 [V]

◎県単位目録 (追加)

[神奈川県]

平野幸彦(1998), 神奈川県産甲虫類目録, 神奈川虫報, 特別号(2), 35-124. [114科, 3870種]

[福井県]

福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会 (1998), 「福井県昆虫目録 (第2版)」, 556pp. コウチュウ目: 佐々治寛之ら (5名); 99-311. [117科, 3202種]

[和歌山県]

的場績 (1998), 和歌山県産甲虫類既報の整理, 訂正と追加3, KINOKUNI, (54), 19-44. (科別種数表: 合計) [106科, 2490種]

[熊本県]

今坂正一(1994), 1993年に採集した熊本県の甲虫, 熊本昆虫同好会報, 39(2), 1-23. [475種]

神奈川県, 福井県とも3000種を越えたとのアナウンスがなされてからかなりの年月が経過したが, この度一括目録として公表された。ともに他府県の追従を許さぬ出来栄であり, これらを目標として続々とチャレンジャーの出現が望まれる。編集子の耳には, 静岡県では既に3800種以上が確認されたとの私信が入っており, また兵庫県のもそれ3100種以上であるとの発表があって, 目録の公開が待ち望まれる。和歌山県は今年中に2500種を達成しそうである。

◎複数市町村を包含するやや広い地域の目録

01. 福島県三岩岳

福島虫の会調査班 (1998), 福島虫の会調査会報告 (三岩岳とその周辺の昆虫), ふくしまの虫, (16), 4-20. コウチュウ目: 芳賀馨ら (4名); 10-19. [40科, 222種]

02. 鳥根県斐伊川水系
淀江賢一郎ら(5名)(1998), 鳥根県 斐伊川水系の昆虫類(1997年の調査結果), ホシザキグリーン財団研究報告, (2), 7-86. コウチュウ目: 33-55. [56科, 413種]
03. 広島県世羅台地
中村慎吾ら(3名)(1998), 広島県 世羅 台地の昆虫類, 比婆科学, (186), 1-122. コウチュウ目: 32-73. [63科, 555種]
04. 岡山県島嶼
岡山県(1998), 「自然保護基礎調査報告書・鹿久居島・北木島・六口島」, 223pp. 昆虫: 重井博ら(3名). a. 鹿久居島: 57-92. [甲虫; 70-77. 34科, 133種], b. 北木島: 144-166. [甲虫; 159-163. 26科, 82種]. c. 六口島: 197-223. [甲虫; 214-219. 29科, 100種].
05. 福井県島嶼半島沿岸域
佐々治寛之(1998), 福井県の日本海域の島嶼と半島沿岸域の昆虫、特に甲虫類の生物地理学的特質, 福井大学 地域環境 研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, (5), 29-54. [74科, 770種]
06. 佐賀県有明海流入河川河口
西田光康(1998), 佐賀県西部の河口付近で得られた甲虫, 佐賀の昆虫, (32), 71-78. [31科, 118種]
07. 青森県下北丘陵
青森県立郷土館(1996-1998), 下北丘陵自然調査概要(1-3), 青森県立郷土館調査研究年報, 昆虫: 福田彰ら(5名). (20); 3-14. [甲虫目録なし]. (21); 3-30. [甲虫: 22-26, 21科, 113種]. (22); 3-30. [甲虫: 17-21, 25科, 121種].
08. 神奈川県丹沢山地
神奈川県(1997), 「丹沢大山自然環境総合調査報告書」, 第10章・丹沢山地動植物目録. 甲虫類: 平野幸彦ら; 123-256. [114科, 2555種]
09. 北海道ニセコ山系
大原昌宏ら(3名)(1997), ニセコ山系昆虫相調査報告(1) - 調査概要, および鞘翅目について, 小樽市博物館紀要, (10), 97-110. [26科, 101種]
10. 栃木県渡良瀬遊水池
佐藤光一・大川秀雄(1997), 渡良瀬遊水池の甲虫, 「渡良瀬遊水池の動植物実態調査報告書(昆虫編)」(渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会, 102pp.), 52-96. [68科, 662種]
11. 和歌山県大塔山系
溝田浩二・今坂正一(1997), 紀伊半島南部における訪花性甲虫群集の自然林・人工林間の比較ーベンジルアセテートトラップの利用ー, 北海道大学農学部 演習林研究報告, 54(2), 299-326 [59科, 427種]
12. 青森県南八甲田山地
青森県(1993, 1997), 「南八甲田山地総合学術調査報告書」, 238pp. 21pll. コウチュウ目: 尾崎俊寛; 105-185. [78科, 922種]
13. 北海道東部
北海道環境科学研究センター(1996), 「「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道東圏域(山岳部)12地域」, 322pp. 昆虫: 広瀬良宏・堀繁久. a. 海別岳 [52種], b. 置戸山地 [49科, 336種], c. 温根湯 [27種], d. 木禽岳 [0種], e. 北見富士 [0種], f. シェンクシタカラ湖 [25科, 157種] g. 滝ノ上 [0種], h. チミケツブ湖 [49科, 394種], i. 武佐岳 [0種], j. 武利岳・武華岳 [32種], k. 紋別沢木海岸 [42科, 272種], l. 養老牛 [0種].

14. 青森県白神山地
青森県立郷土館(1996), 「白神山地の自然—笹内川流域・十二湖周辺」, 青森県立郷土館調査報告, 第37集、自然—4, 103pp. 昆虫・蜘蛛: 福田彰ら (5名); 53-103. 鞘翅目: 60-91. [58科, 655種]
15. 青森県梵珠山
青森県 (1996), 「県民の森梵珠山 自然環境調査報告書」, 118pp. 昆虫目録: 山内智; 71-116. コウチュウ目: 79-99. [53科, 372種]
16. 茨城県筑波学園都市
芳賀馨(1996), 筑波学園都市とその周辺の甲虫, るりぼし, (20), 2-41. [62科, 643種]
17. 鹿児島県奄美大島
今坂正一・海老原円(1996), 奄美大島で採集した昆虫類, KORASANA, (64), 1-41. [56科, 394種]
18. 栃木県太平山
吉富博之(1990-1996), 太平山の甲虫(1-3), インセクト, 41(2);138-139. 44(1);45. 47(2);60-66 [39科, 237種]
19. 北海道阿寒国立公園
久万田俊夫ら (9名) (1995), 「阿寒国立公園昆虫目録」(前田一步園財団調査研究報告, No.13. 290pp. 19ppl.), コウチュウ目: 芳賀馨; 22-30, 68-106. [54科, 454種]
20. 北海道釧路湿原国立公園
釧路昆虫同好会 (1995), 「釧路湿原の昆虫」(SYLVICOLA, 別冊II, 177pp. 8ppl. 鞘翅目: 伊藤勝彦・平間裕介; 57-62, 145-161. [38科, 247種]
21. 山形県/福島県・吾妻山
草刈広一・波多野良次(1994), 「吾妻山の昆虫—その特徴と館蔵標本目録」(米沢市立上杉博物館, 107pp.). 鞘翅目: 74-85. [45科, 523種]
22. 長崎県壱岐島
浦川虎郷(1994), 「壱岐島動物目録」(壱岐「島の科学」研究会). 鞘翅目: 61-68. [27科, 235種]
23. 静岡県天城山
平井克男(1993), 1990年天城山における甲虫類調査記録, 駿河の昆虫, (163), 4621-4653. [51科, 353種]
24. 山形県摩耶山
木俣繁・菊地賢治(1992), 摩耶山及びその周辺の昆虫, 「摩耶山, 総合学術調査報告」(山形県総合学術調査会), 254-299. コウチュウ目: 269-279. [44科, 356種] (水野弘造 記)

虫屋の広場 (19)

”虫寿” 記念誌の発行

当学会会員のお一人, 平野幸彦氏は人も知るアマチュア甲虫屋の機関車役として数々の業績を積み重ねておられるが, このたび64才を迎えられたことを祝って, 神奈川昆虫談話会より, 神奈川虫報, 特別号No.2「平野幸彦氏虫寿記念号」130pp.が発刊された。

”虫寿”なる言葉もそれに伴う祝典行事も耳目に新しいもので, 発想の新鮮さと実践のパワーにまず以て敬意を表したい。記念誌の中身は平野さんの虫歴50年とその間心血を注がれた神奈川県産甲虫類目録が大きな部分を占めるが, 寄せられた祝辞の数々も平野さんの影響力がいかに大きかったかを如実に示しており, 生涯を虫とともに楽しもうとする者には必見の刊行物であろう。2年後に虫寿を迎える編集子もこれに倣って何分の一かの小冊子でも作ればと羨ましく頁を読み終えた次第。

(水野弘造 記)

訂正 [ねじればね, 1998(80)]

誤

12頁26行目:

今回も、淡路島吹上浜及び阪南箱作の個体は、ツシマヒメサビキコリであり・・

12頁28行目:

また、箱作のツシマヒメは大阪府の初記録となる。

正

今回も、淡路島吹上浜及び阪南箱作の個体は、ハマベオオヒメサビキコリであり・・

また、箱作のハマベオオヒメは大阪府の初記録となる。

会報

第50回(1998年度)大会記録

第50回大会は1998年12月13日に大阪市立自然史博物館において開催された。例年通り午前中は自由懇談で、和やかな雰囲気の中、成果の披露や情報の交換が行われた。午後1時より総会が開催され、冒頭本会発足以来長年にわたり会の発展に尽力された故林 匡夫会長の冥福を祈り黙祷を捧げた後、博物館館長の挨拶があり、引き続き会務報告がなされた。会計報告では、会の財政の建て直しが順調に進み、会計面の赤字の実質的な解消等が報告された。その後、故林 匡夫会長の標本等のコレクションが大阪市立自然史博物館に寄贈された経緯が報告され、1999年度『ねじればね』で追悼特集を組むことが承認された。

会務報告の後、武田雅志氏による”カミキリムシ類の幼虫の分類、検索および生態と採集方法”，岸井 尚氏による”日本産コメツキムシ類について”の二題の講演が行われた。大会終了後、例年通り有志による懇親会がもたれた。

*秋田勝巳・*芦田 久・藤田国雄・春沢圭太郎・畑山武一郎・*林 靖彦・穂積俊文・*生谷義一・*今坂正一・*伊藤 昇・*伊藤建夫・蟹江 昇・官能健次・河上仁之・河上康子・木村史明・岸井 尚・北山 昭・*北山健司・黒田祐一・*黒田祐次・*楠井善久・*的場 績・松田吉弘・三木三徳・*水野弘造・中川 護・生川展行・野嶋宏一・*野村英世・大石久志・奥田則雄・奥田好秀・*大塚 勲・大築正弘・*初宿成彦・高羽正治・*武田雅志・*田中 勇・*田中昭太郎・*谷角素彦・天満智憲・八木正道・*八尋克郎・山地 治・安井通宏・横関秀行・*吉田正隆・吉川正彦 (敬称略, アルファベット順, *は懇親会出席者)

(木村史明 記)

会計報告

1998年(平成10年)の収支状況を報告します。昨年の単年度収支は1996, 1997年度に引き続き赤字となり、永年の課題であった赤字体質の収支も着実に改善され、次年度繰越金449,484円が出るまでに財政の再建が達成されました。これは収入面では年会費の順調な納入、新入会員の増加による増収、賛助会員(穂積俊文氏)や岸井尚氏の御寄付に依る御支援、また支出面での諸経費の節減に依るものです。今後とも会員の皆様のご助力をお願いします。(野村英世)

1998年度(平成10年度)収支決算書 (自 98年 1月 1日 至 98年12月31日)

収入の部		支出の部	
会費	1,760,000	印刷代	1,626,450
バックナンバー代	390,125	会誌送料**	273,060
別刷代	46,825	例会・大会等の通信費	65,350
広告料	100,000	事務・消耗品代	21,575
寄付*	150,000	行事費	5,000
前年度繰越金	15,262	大会費	15,508
		本部移転に伴う費用	5,785
		次年度繰越金	449,484
計	2,462,212	計	2,462,212

* 岸井 尚氏より寄贈いただいたコメツキムシの別刷りを会員諸氏に頒布した代金です。岸井氏に厚くお礼申し上げます。なお残部が若干ありますので、希望の方は水野弘造氏まで申し込んで下さい。

** 林 匡夫氏立て替えの1997-8年分、別刷り及び外国向交換誌の送料 62,070円と領収書の送料を含む。

1998年度特別会計収支計算書(1998.12.31現在)

収入の部		支出の部	
基金(166口)	1,660,000	編集用パソコンソフト	260,000
利息及び保育社よりの		(2セット)	
印税の一部	106,472	三和銀行スーパー定期	
		預金へ	1,506,472
計	1,766,472	計	1,766,472

1994年度創設しました学会基金は会員の皆様の御協力により現在166口に達しました。昨年、編集用パソコンソフト2セットの購入にその一部を支出しましたが、残額は定期預金として保管しています。この基金は一口10,000円でございますので、当学会の財政を支援するため、なお一層の御協力を御願い申し上げます。

本会への送金は 郵便振替口座 00900-8-39672
 または銀行口座 三和銀行 堺東支店(205) 普通口座番号 5410892
 (加入者名) 日本甲虫学会 にてよろしく御願います。(野村英世)

お知らせとお願い

昆虫学評論 54巻2号あるいは『ねじればね』(1999年末)を故林 匡夫会長の追悼の号として、追悼文・著作目録・献名リスト及び論文等の掲載を計画しております。ご意見をお寄せいただくとともに、追悼文と論文を募集致しますので奮って投稿の程よろしく御願い致します。(運営委員会)

採集会(1999年)案内

7月10-11日、奈良県和佐又山で開催致します。今年も日本鞘翅学会との合同採集会です。関東方面からも多数みえられる予定ですので、この機会に交流を深めては如何ですか。事前に人数を予約いたしますので、参加される方は7月1日までに学会運営委員の水野弘造までお知らせ下さい。車の手配が必要な方も水野までお知らせ下さい。(運営委員会)

水野弘造 住所：〒611-0002 京都府宇治市木幡熊小路19-35
 電話：0774-32-4929 E-mail：mizuno@ymdchem.co.jp

発行: 1999. 3.15	日本甲虫学会
(本部) 〒546-0034	大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付
振替口座: 00990-8-39672	URL: http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html
Tel: 06-6697-6221	Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp
昆虫学評論原稿送付先(英文)	
〒666-0116	川西市水明台3-1-73 林 靖彦 Tel. 0727-93-3712
ねじればね原稿送付先(和文)	
〒611-0002	宇治市木幡熊小路19-35 水野弘造 Tel. 0774-32-4929
〒614-8371	八幡市男山雄徳8 E 7-303 伊藤建夫 Tel.(Fax) 075-983-3491
入会及び会費問合せ先 (年会費5,000円, 入会金は不要)	
〒590-0144	堺市赤坂台1-18-5 野村英世 Tel. 0722-98-4066